



NAGAYAMA HIGH SCHOOL Information

東京都立永山高等学校情報紙

2024
SUMMER

令和6年7月発行

Do our best in Nagayama!

遠足振り返り

一学年 Tさん

私は今回遠足に行って、学んだことが二つあります。

一つ目は、「知識」の大切さです。火起こしを自分たちでやりましたが、私の班は火の段階で躓いていました。最終的に、先生に助けられ、火をつけられました。私はそこで、ある程度の知識や知識を有効に使う力が大切だと感じ、学ぶことができました。

二つ目は、「考えて行動する」大切さです。時間通りではなかった遠



足ではありませんが、元からある計画に沿って行動する際、「どうすれば計画通り動けるか」「どうすれば時間に間に合うか」など、行動ならぬ「考動」は予定を狂わせないためにも大切だと学ぶことができました。

最後に、私は今回の遠足を通して、たくさん自然に触れることができた喜びを感じられたと同時に、主に二つの学びを得られて良かったです。価値のある経験になりました。

二学年 Tさん

僕は今回の遠足を終えて、班のメンバーとの団結力を深められると共に修学旅行の良い練習になったと思いました。僕たちの班は四人の班で他の班より少し人数は少ないですが、個々で協力してルートを調べたり、興味のある場所を調べたりして効率良く進めることができました。一人一人が決められた役割をこなして団結力がまた深められたと思います。

反省としては、最初の集合時間が少し遅れてしまったことと、途中で班員の一人と少しの間はぐれてしまったことです。僕は今回の班長だったためしっかりと班員をもまとめることができず、反省しています。修学旅行のときはこんなことがないよ

うにあらかじめ問題を考えておいてその問題が起こってもすぐに対処できるようにしたいと思っています。

個人の感想としては、町の風景やお店を周ったりすることはとても楽しくて、満足することができました。

今回は友達と一緒にでしたが、今度は一人でも知らないようなところに行きたいと思っています。



体育祭

三学年 Iさん

今年度の体育祭で私は体育祭実行委員長という大役を務めさせていただきました。三学年合わせて六十人近い実行委員をまとめるのは大変だと予想していました。今年は三年生の希望者が実行委員をやるという形となり、多くの三年生が実行委員をやってくれました。委員長の私を含め三年生や副委員長を中心に二年生や一年生の実行委員ともじっくり話し合いしつかりと協力し、実行委員がみごとに一丸となってまとめることができました。



当日は、朝早くから実行委員が集合して、最後の打ち合わせで自分たちの係かしつかり把握しました。体育祭実行委員全員が任された仕事をしつかり行うことで、順調に全種目が進行し、予定より早い時間に体育祭を終了することができました。一人一人が自分の役割を果たし、体育祭という大きな行事を成し遂げたことはとても素晴らしいことで嬉しく感じました。あらためて三年間体育祭実行委員をやった良かったと思いました。

体育祭実行委員長に就任した時は、自分が実行委員長で大丈夫なのかとても不安で、心の準備が整いませんでした。色々な先生方の助言のお陰で自信をもち、副委員長や他の実行委員ともたくさん話し合い、慎重に準備を進めることで体育祭をやりきることができました。私は実行委員長のような大役を務めるのは人生初めてでしたが、色々な人と繋がり、協力することで体育祭を無事に成功させることが出来ました。

二学年 Kさん

体育祭を終えてもう一ヶ月も経とうとしています。私は体育祭を通して、分かったこと、学んだことがいくつ

かありました。



一つ目、それは団結することの難しさです。大縄、ムカデ、全員リレー。体育祭で行う競技はどれも「団結」が重要なものばかりです。やる気がない人、ルールを守らない人が一人でもいたら成り立つことができないと思います。例えば大縄です。私たちのクラスは練習では絶好調だったのですが予行の時には絶不調に陥り、まさかの最下位でした。しかしその失敗を糧として四組は色々やり方を工夫して行きました。掛け声を変えたり、並び方を変えたり、

時には縄だけで回してみたり。そんな工夫が効果的だったのか四組が本番ではなんと一位をとることができました。予行では最下位だったクラスが一位になりました。私は、大縄の工夫をしていくうちに皆の心が変化し、団結できたのかなと考えました。その日のコンディションが良かったとかではなく、練習しているその場で皆で考える工夫が大事だと感じました。

二つ目は、初めて体育祭実行委員をやってみて学んだことです。私は実は実行委員に積極的に入ったわけではないのですが、やってみて初めて分かったことがあります。待つのではなく行動することが重要だという事です。実行委員はクラスをまとめることが主な仕事です。私はまとめることが得意というわけではないのですが、重要な仕事なので少しずつ頑張ってみました。その中で積極的に行動することの大切さに気付きました。待っているだけでは何も変わらないのです。まだ卒業まで色々な行事が残っているので少しずつ行動に移してみようと思います。

体育祭はただ勝敗をつけるのではなく色々な意味があることに気付かされる行事でした。まだまだ色んな

行事がこの先待っています。が、体育祭で学び身につけたものを学校生活に活かしていきたいと思います。

一学年 Kさん

私は高校生になって初めて体育祭に参加しました。その時記憶に残ったことを二つ挙げたいと思います。一つ目は大縄です。初めて体育の授業で練習を行った時は一回も飛ぶことができませんでした。まったく息が合わずに本番で何回跳べるのか不安でしたが、練習を重ねるごとに跳べる回数も増えていきました。本番で一位ではなかったものの四十回も跳ぶことができました。クラスのみんなとは本番まで努力し、協力し合う事で一番良い結果につながったと思っています。

二つ目は全員リレーです。全員リレーも練習では順位が低かったのですが走順を変えるなど様々な工夫をして、三組全員が全力を出した結果一位を取ることができました。

私は今回の体育祭では体育祭実行委員を担当しました。クラスの為の仕事や実行委員としての仕事など色々な仕事をしました。苦労したり悩んだりしたくさんのことがありましたが、クラスの輪が深まったので

やって本当に良かったと思いました。



進路について

卒業生 Wさん

(明星大学 データサイエンス学環
学校推薦型選抜指定校)

私は一年生の頃から進路を決める時に選択肢を多く残せるように、勉強に力を入れてきました。定期考査は一週間前から本格的な試験対策の勉強を始め、提出物はきちんと出すように心掛けてきました。一方で、学校で進路学習が増えていく中で、自分自身は数学が好きでデータを扱

えることは将来重要だと考えるようになり、データサイエンス学科を志望することになりました。

永山高校の昨年度の指定校一覧にはデータサイエンス学科の枠がなく、一般受験をするしかないと考えていましたが、今年度から願っていたその枠が新しくできたので指定校で受験することにしました。

具体的な進路が決まっていなくても、気になった大学はパンフレットを見るだけでなくオープンキャンパスに行き自分に合っているかどうか実際に見て確かめることはとても大切だと思います。同じ学科名でも大学によって学べる内容が異なるだけでなく、他大学との違いが明確にわからないと志望理由書が書けずに困ることになるからです。

進路のことで迷ったり不安に感じたりすることもあると思いますが、そういう人こそ自分が得意な事や不得意な事を分析して、本当にやりたいことを探しながら、一生懸命勉強してください。勉強をして評定平均値を少しでも上げておくことが、進路決定の選択肢を広げることになるからです。最後まで諦めずに頑張ってください。

卒業生 Sさん

(警視庁)

私は警視庁警察官採用試験を受験しました。一次試験の内容は教養、作文、漢字と適性検査でしたが、対策としてこの中で最も力を入れたのは教養試験でした。試験範囲が膨大なため、約一年前から勉強を始め、数的処理と呼ばれる科目を重点的に行いました。しかし、私は一人で黙々と勉強することに不安があったので、受験日の七カ月前になった時点で夜間制の予備校に通い始めました。授業とその復習を繰り返し行うことで徐々に知識が増えていくことを実感しました。また、作文は何度も過去に出題されたテーマの作文を書いては講師の先生に添削をお願いしました。二次試験は主に面接、体力検査を行いました。面接対策は質問されるような項目の答えを事前に考えておき、スマホアプリの音声読み上げ機能を利用して一人でも練習をしました。それから、学校の先生や予備校の講師の先生に練習をして頂いたり、現役の警察官の方に面接のアドバイスをして頂いたりもしました。

このように公務員試験は長期間にわたり自分を信じて地道に頑張ることができ、試験にも合格すること

ができたのでとても達成感があります。入庁して困難なことがあっても、この苦労を忘れず、乗り越えていける警察官になれるよう努力し続けたいと考えています。

公務員を目指している人は一、二年生のうちから進路指導部の公務員講座に参加し、計画的に時間をかけて繰り返し問題演習をして、対策をしつかりすることが大切です。頑張つて自分の夢をかなえてください。